

経 営 層 向 け

第2弾

10/21~

全6回

ビジネスと人権 エグゼクティブセミナー

新たな企業行動のかたち・ビジネスの可能性を問う

対面開催

20名限定

当事者意識をもって人権を守り、社会を変えていくには、個人として、
経営者として、ビジネスとして何ができるかを6名の講師と語り合う
対話型研究会形式のセミナーです

第1回

2025年10月21日（火）

15:00～18:30

人権尊重がサステナブル経営にもたらす
価値創出とは何か

若林 秀樹さん C&C Link 代表
国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事

第2回

2025年11月5日（水）

15:00～18:30

外国人受入れ新時代の課題と展望

毛受 敏浩さん 関西国際大学 客員教授

第3回

2025年11月19日（水）

15:00～18:30

人権は、人間社会が生み出したイノベーション
奴隷制から現在まで

河口 眞理子さん 立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授

第4回

2025年12月2日（火）

15:00～18:30

感染症との闘いから見てきたこと

尾身 茂さん 公益財団法人結核予防会 理事長

第5回

2025年12月17日（水）

15:00～18:30

人を大切にしない社会を変える

伊藤 和子さん 弁護士
認定特定非営利活動法人ヒューマンライツ・ナウ副理事長

第6回

2026年1月14日（水）

15:00～18:30

問いでつながる

永井 玲衣さん 哲学者・作家

参加費 200,000円（税込）

当協会会員企業は150,000円（税込）

- ※ 全6回分の参加費です
- ※ 各回ごとのお申込みは受け付けておりません
- ※ 参加者の入れ替わりは自由ですが、
原則として部長相当職以上のご参加をお願いします

前回参加者の声

- 多彩な講師によるさまざまなテーマの話で、自らが人権について非常に狭い定義で捉えていた。我々の活動は「人間が行なっている」ので、一番に「人権」があるのは当然。企業活動においても「人権」を重要な問題として捉えたいと感じた
- 社内での取り組みにとどまらず、積極的に仕掛け、意図的に事を起こしていくことも企業市民として必要。もっとできることはないか社内でも議論してみたい
- 「人権」とは誰にでも与えられるべき自己実現のための権利であることを改めて感じた。企業人である前に、一人の人間として人権を考えるべきである

会場協力 アミタホールディングス株式会社

東京都千代田区神田駿河台4丁目3番地 新お茶の水ビルディング12階

アクセス

JR御茶ノ水駅 聖橋口改札 徒歩1分
東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅直結

主催：公益社団法人日本フィランソロピー協会

東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル244

<https://www.philanthropy.or.jp/>

お申込み・お問合せ

<https://www.philanthropy.or.jp/exec/2025/register/>



このみちかす 本セミナー座長 河野通和さん

本セミナーでは、講師による講演のあと、座長・河野通和さんと講師を中心に、ご参加の皆様との質疑応答・意見交換などの対話を通じて、より深い学びと発見の機会としていただきます

<メッセージ> 国際社会の変化を受け、日本でも2020年10月に「『ビジネスと人権』に関する行動計画（2020—2025）」が策定されました。いまや人権を尊重し、そのための体制を構築することは、企業にとって持続可能性につながる責務となっています。その一方で、国の対応は依然として立ち遅れが目立ち、人権政策を推進する省庁も、政府から独立した人権擁護機関もなく、人権保護の立法も整わない状況が続いています。また、日本の社会や企業文化のなかに根強く残っている人権問題は、昨今世間を騒がせているさまざまな事件でも明らかな通りです。前回の研究会では、そもそも人権とは何か、人権を尊重するとはどういうことなのか、という根源に立ち戻って、私たちの足元にある人権問題の実態を「可視化」し、その改善のために何ができるかの糸口を探りました。今回はその議論をさらに深め、私たちがより当事者意識をもって社会を変えていくには何をすべきか、またそれを新たな企業行動のかたち、ビジネスの可能性につなげられないか、皆さんとともに模索できればと思います。



<プロフィール> 編集者・読書案内人。中央公論社（現・中央公論新社）で「婦人公論」「中央公論」編集長。新潮社で季刊誌「考える人」編集長を歴任。2017年株式会社ほぼ日に入社し「ほぼ日の学校」初代校長を2021年10月まで務めた。著書に『言葉はこうして生き残った』、『「考える人」は本を読む』など。京都橘大学客員教授、たちばな教養学校Ukon（うこん）学頭。公益社団法人日本フィランソロピー協会理事

登壇者プロフィール

わかばやし ひでき

若林 秀樹さん

C&C Link 代表

国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事

1980年ヤマハ株式会社入社。ヤマハ労組・電機連合役員から外務省、民主党参議院議員、参院憲法調査会副会長、アムネスティ日本事務局長、THINK Lobby所長、ビジネスと人権 市民社会プラットフォーム代表幹事を歴任。現在はビジネスと人権、国際人権基準、サステナビリティ、公正な社会に向けた企業の役割、国際協力等の分野で、主に企業や団体向けに、講演、コンサルティング等を行なっている。2024年4月、旭日中授章を受賞。



めんじゅ としひろ

毛受 敏浩さん

関西国際大学 客員教授

兵庫県庁勤務を経て1988年より公益財団法人日本国際交流センター勤務。2024年9月まで執行理事。現在、文部科学省中教審日本語教育部会委員、JP-MIRAI（責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム）シニアアドバイザー、外国人雇用協議会顧問、新宿区多文化共生まちづくり会議副会長。著書に『自治体がひらく日本の移民政策』（明石書店）、雑誌『文藝春秋』に掲載された出口治明、河合雅司両氏との鼎談。『亡国の「移民政策」』で第80回文藝春秋読者賞受賞。



かわぐち まりこ

河口 眞理子さん

立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授

大和証券グループ本社CSR室長、大和総研研究主幹など歴任。2020年4月より現職。企業の立場（CSR）、投資家の立場（ESG投資）、生活者の立場（エシカル消費）のサステナビリティ全般に関し20年以上調査研究、提言活動に従事。現職では、サステナビリティ学についての教育と、エシカル消費、食品会社のエシカル経営、および市民セクターの支援にかかわる。著書『ソーシャルファイナンスの教科書』（生産性出版）など



おみ しげる

尾身 茂さん

公益財団法人結核予防会 理事長

1990年より世界保健機関（WHO）に勤務。西太平洋地域においてポリオの根絶対策などに取り組む。1999年、WHO西太平洋地域事務局長就任後、SARSの制圧及び各加盟国の地域医療対策や結核対策等で陣頭指揮。2009年よりWHO執行理事。2015年、NPO法人「全世代」設立。2020年2月、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議副会長、新型コロナウイルス感染症対策分科会長。著書に『1100日間の葛藤』（日経BP）。



いとう かずこ

伊藤 和子さん

弁護士 認定特定非営利活動法人ヒューマンライツ・ナウ副理事長

1994年弁護士登録（東京弁護士会所属）、以後女性、子どもの権利、冤罪など、人権課題に関わって活動。2004年、ニューヨーク大学ロースクール客員研究員を経て、2006年、日本発の国際人権NGOヒューマンライツ・ナウの立ち上げに関わり、以後2022年まで事務局長。現在、同団体副理事長としてビジネスと人権、ジェンダー平等その他の課題に取り組み、国内外の人権問題の解決を求めて活動中。日弁連両性の平等に関する委員会委員。WWFジャパン評議員、慶應義塾大学ロースクール講師。著書に『ビジネスと人権-人を大切にしない社会を変える』（岩波新書）等



ながい れい

永井 玲衣さん

哲学者・作家

人びとと考えあい、ききあう場を各地でひらいている。問いを深める哲学対話や、政治や社会について語り出してみる「おすおすダイアログ」、せんそうについて表現を通して対話する写真家・八木咲とのユニット「せんそうってプロジェクト」、Gotch主催のムーブメントD2021などでも活動。著書に『水中の哲学者たち』（晶文社）『世界の適切な保存』（講談社）、『さみしくてごめん』（大和書房）。第17回『わたくし、つまりNobody賞』受賞。詩と植物園と念入りな散歩が好き。



お申込み・お問合せ

<https://www.philanthropy.or.jp/exec/2025/>

JPA ビジネスと人権2025

検索

<公益社団法人日本フィランソロピー協会>

1963年設立。健全な民主主義社会の実現と共生社会の構築を目指し、企業や個人による社会貢献活動の推進を支援しています。研修や出版のほか、寄付・ボランティアのコーディネート、社会貢献プログラムの企画・提案・運営も行っています。